

令和5年度

# 事業報告書

## 【重点項目】

- 1 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする
- 2 プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる
- 3 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

社会福祉法人おおぎだ

## 目 次

### 令和5年度社会福祉法人おおぎだ事業報告

事務局..... p1

### 各事業所別事業報告

特別養護老人ホームローズヒル(従来型・ユニット型) .....p5

短期入所生活介護(従来型・ユニット型) .....p7

茂呂デイサービスセンター .....P8

美茂呂デイサービスセンター .....p9

ケアハウス菜の花 ..... p10

茂呂ヘルプサービスセンター ..... p11

茂呂居宅介護支援事業所 ..... p12

厨房部門 ..... p13

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

民生委員の定例会議の際に、各部署の管理者が参加し、民生委員の皆さんに挨拶とサービスの説明を行いました。また、ミニデイサービスの参加や、地域のボランティアの受け入れ、デイサービスのお便りを回覧板にて回覧していただき、広報活動や地域の方との交流も行いました。特養では、医療依存度の高い方の受け入れ、看護学生の実習受け入れも新たに始まり時代のニーズに対応しています。

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

外部研修への参加に重点を置き、学びの発表や、日頃のケア方法の気づきの中からオムツの研修会を開催しました。技術の共有や問題の解決により主体的に学ぶ場を構築できました。資格取得では、介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士等の合格者が増え、自らのスキルアップに繋がっています。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

職場巡視では、各部署の代表が他部署の巡視することで、気づきを各部署の改善につなげています。記録の電子化では、デイサービス部門、特養部門の移行が完了し、デイサービスでは、記録業務の効率化、特養では、ペーパーレスによる印刷や保管、集計作業の効率化が図られました。各部署のBCP(業務継続計画)が完成し、感染対策、自然災害の発生に備え、令和6年度からの介護報酬改定に対応しています。

2 理事会・評議員会

- (1) 理事会開催      定例理事会    (5月29日、10月30日、3月28日)  
                            臨時理事会    (6月14日、8月7日、9月11日)
- (2) 評議員会開催    定時評議員会 (6月14日)
- (3) 評議員及び役員  
の選任・解任委員会(6月8日)

3 施設運営管理

- (1) 特養ユニット型空調設備更新
- (2) 厨房空調設備増設
- (3) ケアハウス菜の花空調設備更新
- (4) 固定資産関係
  - ① ボイラー設備更新
  - ② 車両2台購入 (1台更新、1台増車)
  - ③ 機械浴槽、入浴用車椅子購入
  - ④ 汚物処理機購入
  - ⑤ 温冷配膳車購入
  - ⑥ 75型液晶テレビ購入

(5) 運営会議・コスト 4回開催(6月、8月、11月、2月)

事業計画・予算、事業報告・決算報告等、経営状況、月次報告、コスト削減等

(6) 法令管理体制委員会 2 回開催(11 月、2 月)

(7) 月次報告

(8) 管理者会議 39 回開催

職員処遇、求人関係、規程の改正、理事会・評議員会開催準備、制度の対応、予算関係、研修関係

(9) 伊勢崎税務署税務調査 4 月 18 日、20 日 指摘事項なし

#### 4 人事・組織管理・人材育成

(1) 令和6年4月1日 ( 131 人 ) 現在の職員数

部 署 職 名	特 養 ( 短 期含む)		ケア ハウス		訪 問 介 護		茂 呂 デ イ サ ー ビ ス		美 茂 呂 デ イ サ ー ビ ス		居 宅 介 護 支 援 事 業	
	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤
施設長 (管理者)	1 (統括 1)		(1)		(1)		(統括 1)					
副施設長		1										
医師		(1)										
生活相談員	4		1				2		1			
サービス提供責任者					2							
介護職員	56	16	1				2	6	1	4		
看護職員	6	2					1	2	1			
訪問介護員						4						
介護支援専門員	2	1									3	
機能訓練指導員		1										
管理栄養士	1											
事務員	3	3										
合 計 (131 人)	73	24	2		2	4	6	8	4	4	4	

参考

令和4年4月 (135 人)	72	28	2		2	6	5	7	5	5	3	
令和3年4月 (136 人)	73	26	2		1	8	5	8	4	6	3	
令和2年4月 (127 人)	65	28	2		1	8	5	6	6	3	3	

注:( )は総数に含まれない。

(2) 入・退職状況

区 分	職 員	専 門 職 準 職	一 般 準 職 員	嘱 託	合 計
入職者	9(6)	2(0)	3(3)	0	14(9)人
退職者	6(2)	1(0)	8(7)	0	15(9)人

注:( )は昨年度実績

(3) 職員評価、処遇調査、個人面談実施

5 自己研修 各部署にて報告。

## 6 防災対策

- (1) 防災委員会 2 回開催(安全衛生委員会内)、研修会 2 回開催(9/14, 3/7)
- (2) 消防訓練(昼想定)・水害訓練 9 月実施  
消防訓練(夜想定)・防犯訓練 3 月実施
- (3) 建築物、建物の点検(自主点検)実施 9 月、3 月

## 7 施設・設備維持管理

- (1) 空調・ボイラー設備点検 6 月、12 月
- (2) 全館定期清掃 11 月
- (3) 受水槽・水質検査点検 5 月
- (4) 厨房害虫調査 毎月実施

## 8 安全衛生

- (1) 感染対策・事故防止委員会開催 各事業所にて報告。
- (2) 安全衛生委員会 12 回開催、臨時 2 回(新型コロナウイルス感染防止関係)  
職場巡視 10 回実施、嘱託医との話し合い 12 回開催
- (3) 浴槽ろ過装置点検実施 8 月(ケアハウス) 12 月(デイサービス)
- (4) 浴槽水質検査実施 8 月ケアハウス再検査済み
- (5) 職員健康診断実施 4 月(夜勤者)、10 月全職員
- (6) インフルエンザ予防接種実施 10 月
- (7) ストレスチェック実施 10 月
- (8) 腰痛予防アンケート実施 10 月、3 月(特養)
- (9) 新型コロナワクチン接種(入所者・職員) 6 回目 198 名 7 回目 159 名
- (10) 感染対策本部設置 ・8/21～8/31 ・12/5～12/17 ・12/25～12/31  
陽性者(入所者 25 名 職員 27 名)  
\*クラスター等の発生状況は、各部署にて報告。
- (11) SMS(ショートメールサービス)一斉サービスの運用開始

## 9 サービスの向上

- (1) 連携会議 12 回開催  
利用空き情報、事業所間の情報交換と業務改善提案、地域や家族の情報交換
- (2) 苦情改善委員会開催 9 月、3 月(研修会)  
苦情受付 6 件、皆様の声(意見箱) 0 件  
\*詳細は1F ラウンジにて公開

## 10 地域福祉関係

- (1) 入所家族に関する事項  
ローズヒル・短期入所者への面会状況  
\*令和 2 年度以降は、面会制限の為、各事業所にて報告。
- (2) ボランティア状況
  - ① 意見交換会と感謝会 中止
  - ② 慰問等の受け入れ 中止
  - ③ 感謝状授与対象者なし

\*ボランティア受け入れ状況は、各事業所にて報告。

(3)給食・広報委員会 12回開催

- ① おおぎだだより 30、31号発行
- ② ホームページの更新 随時

(4)地域への広報活動

- ① ミニデイ支援 北千木町 7回 今泉町1丁目 3回
- ② チャレンジウィーク・インターシッ  
伊勢崎市立第四中学校 3名 群馬県立伊勢崎清明高等学校 2名  
群馬社会福祉専門学校 1名
- ③ 実習生の受け入れ  
群馬社会福祉専門学校 1名 さくらカルチャーセンター伊勢崎 1名  
介護労働安定センター 2名 伊勢崎敬愛看護学院 7名
- ④ 介護体験等の受け入 上武大学 2名 群馬大学 1名
- ⑤ 伊勢崎市公園緑地課主催「オープンガーデン」5月13日・14日開催
- ⑥ 「知ってもらおう介護の仕事」は訪問中止の為資料のみ届ける。
- ⑦ 鯉のぼり掲揚(期間4月27日～5月18日)
- ⑧ フードバンク活動支援(とまり木の会)へ非常食の寄付(4月、9月、1月)
- ⑨ 令和6年能登半島地震義援金の募金活動 計92,144円を送金。

11 福利厚生

(1)親睦会 補助金支給 約6,000円/1人

- ① クリスマスケーキ配布 (126人)
- ② 各部署で親睦を図る費用(1,000円)/1人 (134人)

(2)10、20年表彰・アイデア表彰・職員紹介

年 度	10.20年表彰受賞者	アイデア提案	職員紹介者
令和 3年度	6人(特養4、居宅1、事務1)	2人(特養2)	3人
令和 4年度	10年5名(特養2、デイ2、訪問1) 20年5名(事務2、特養2、デイ1)	3人(特養3)	0人
令和 5年度	10年8名(特養7、デイ) 20年1名(事務1)	3人(特養1事務1デイ1)	0人

注:( )は所属事業所

(3)ユニホームの棚卸実施

## 特別養護老人ホームローズヒル（従来型・ユニット型）

おおぎだの重点項目に基づき報告

### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 新型コロナウイルス感染症の5類対応以降、徐々に行事等の集合人数の拡大を行った。各部署では夏祭りや秋祭りを丁目ごとではなく、赤城・榛名・妙義の単位で行うことができた。また日々の午後の活動においても、ラウンジに各丁目から集合している。生活の場から一步出たスペース内での運動や行事は、活発でより明るい雰囲気の中で実施され、利用者同士の交流の場にもなっている。（赤城には、鎮痛剤の貼付剤や内服を併用している方で、時折痛みで不穏になる利用者がいる。この方が他の利用者と一緒に運動に集中されているときには、痛みの訴えがなく、元気に笑顔で参加している）
- ② 相談員やケアマネージャーは、入所相談や面会時、契約の際に家族の意向に耳を傾ける努力を行っている。入院や永眠等により退所があっても、このような姿勢が地域の各施設の皆様や職員に知ってもらえているためか、一時的な空床があっても満床にすることができている。
- ③ 地域のニーズへの対応として、以下の実習受け入れを行った。

群馬社会福祉専門学校	1名
さくらカルチャー伊勢崎	1名
県立伊勢崎清明高等学校 インターシップ	2名
伊勢崎敬愛看護学院 老年看護学実習	7名

### (2) プロ意識をもって、主体的に働く職員を育てる

- ① 赤城エリアでは、より良い睡眠を促すために夕方に足浴を実施している。足浴を行った利用者は、行わない利用者よりも睡眠に入るまでの時間が短くなる傾向にあることが、眠りスキャンのデータより得られた。不眠傾向のある利用者にある程度の効果や、「またしたい」との要望があった。

職場内研修（姿勢が崩れた時の車椅子の座り直し、便秘、オムツ交換等）を行い、各自の技術の見直しを心掛けた。特にオムツ交換の研修では、オムツの材質や特徴、男性・女性の特性を踏まえたオムツの使用方法などについて改めて学習し、排泄物がオムツから漏れるなどのケースが少なくなってきた。

榛名エリアでは、NPO 法人が身元引受人となっている利用者の看取り介護を行った。食事へのニーズが高い方で、買い物の依頼、施設玄関前での移動販売の利用、事務との金銭管理の協力等、施設全体で看取り介護に携わった。また、安全に摂取するための食品の選択について、栄養士や職員間で調整を行った。これにより、差し入れのみの食事から一時的に、施設の食事への移行が可能となった。家族とは縁遠かったが、入所時より2名のケアマネージャーが継続的に担当し、家族との調整を図った。危篤状態ではあったが、一度も面会に来られたことのない家族が面会に来て、看取り後に「気持ちの整理が出来ました」と話されていた。利用者との繋がりに一助となるサービスが実施できたかと考えている。

妙義エリアでは、職員同士の関係性を強化し、より良いチームワークづくりに役立てるため、職員間のコミュニケーションのための時間を設定した。これにより、仕事についての質問や依頼が気軽にできるようになったとの声があがった。

利用者の A 様は、8年前より当施設のヘルパー、デイサービス等を利用され、現在看取り介護中である。長年、当施設の各事業所とのよい関係が維持されてきたためか、ローズヒルでの看取りを選択して頂けた。関わりのあったデイの職員、ヘルパーの職員は、面会時の家族に気軽に声をかけている。また、妙義のゆったりとした温かな雰囲気の中での看取り介護は、家族の支援になっているのではないかと考える。

## ②資格取得・研修参加実績

介護福祉士	5名合格
介護支援専門員	2名合格
特定行為業務従事者	2名取得
認知症ケア専門士	1名取得
権利擁護推進委員養成研修	1名参加
中堅研修等外部の研修参加者	31名参加

看取り実績 7件 人生会議 7件

(看取り件数経過:R元年0件 R2年1件 R3年4件 R4年7件)

## (3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 主に赤城エリアでクラスターが発生した。感染者が発生するたびに隔離のためのベッド移動、及び感染エリアの区分け、対策の共有と徹底を行った。職員は、これまでの経験を活かし、積極的に対策を講じた結果、夏季のクラスターは2週間、冬季のクラスターは約3週間(24日)で終息することができた。他の部署へ拡大することなく、想定したエリア内のみで終息できたことは、感染予防対策の知識や技術が培われていると考える。一方で、ユニット1階はクラスターの発生がないため、発生時に戸惑わないようなトレーニングの機会が必要である。また、コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザや疥癬、帯状疱疹等、施設では、様々な感染症が発生している。その都度、感染経路及び対策を学びあい、予防対策を身につけていきたい。
- ② 各エリア間の協力体制を継続してきたことで、突然の人員不足時等に円滑に応援体制が行われるようになってきている。
- ③ 勤務表・請求業務の複数担当制が整いつつあるため、継続する。
- ④ 介護記録について電子化への切り替えが終了した。各職員への懇切丁寧な指導、綿密な調整等、電子化導入メンバーの高いリーダーシップとチームワークを令和6年度も活かし、導入後の再調整を課題としていく。
- ⑤ ベッド稼働率実績(短期入所と合わせ) 従来型 94% ユニット型 95%



## 短期入所生活介護(従来型・ユニット型)

### 1 おおぎだの重点項目に基づき報告

#### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① ショート担当が3人体制になり、外・内部ともに相談しやすい体制作りができた。空所や入院の空きベットを利用して、可能な限り受け入れを行っている。
- ② 地域連携の強化に努め、おおぎだの在宅部門を始め、他事業所のケアマネジャーや病院のソーシャルワーカーより、継続的な問い合わせを頂いている。家族の体調不良やレスパイトへの対応、退院後在宅生活が困難な方の受け入れ等を行った。また、入所部門と連携し、長期的利用者を長期入所へ移行した。
- ③ 医療的ケアが必要な利用者について看護職員と相談し、インスリン注射や在宅酸素の利用者を受け入れた。今後も看護職員と連携して、医療的ケアが必要な方の相談に対応していきたい。

#### (2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① 今まで生きてきた人生や家族関係、性格を聞き取り、人生会議が浸透できるような取り組みができる機会が少なかった。今後はケアマネジャーと連携して、担当者会議等の機会に行っていきたい。
- ② 特別養護老人ホームローズヒルに同じ。

#### (3) 感染予防や災害への強化を図り安定した経営を継続する

- ① コロナウイルスの感染が確認された際には、ケアマネジャー、家族と相談のうえ、他エリアでの受け入れを行った。
- ② ベッド稼働率(特養と合計) 従来型 94% ユニット型 95%

### 2 会議、行事等については特別養護老人ホームローズヒルに同じ。

# 茂呂デイサービスセンター

## 1 おおぎだの重点項目に基づき報告

### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ①8時から18時までの利用や、短時間・午後からの利用等、柔軟に対応できた。
- ②少人数でのリハビリは、実現できず、個々か集団での音楽体操や足の運動となった。  
個々を活かす活動では、手のリハビリを兼ねて、季節の飾り(折り紙・切り絵・貼り絵・塗り絵等)の制作ができた。  
また、レクリエーションを再開し、ゲームやおやつ作りを楽しむことができた。
- ③サービス困難事例では、食事介助の様子をケアマネージャーに見て頂いたり、訪問や家族との連携で利用を続けていくことができた。
- ④茂呂デイサービスからショートステイ、ローズヒルへつなぐことができた。(6名)(昨年度7名)

### (2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ①記録の電子化は、順調に行えた。次年度は、職員全員が出来るようにしたい。
- ②経験者の異動や入職に対しては初期教育体制はできたが、新人職員向けのマニュアルや手順書は次年度に行う。
- ③リモート研修にパート職員も参加できた。

### (3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ①1日平均24名の目標に対して、20名だった。

新規利用者19名(茂呂居宅介護支援事業所8名)。お試し利用者23名。担当者会議74回。  
年間利用者人数

介護度	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年比
要支援1・2		192	134	190	141%
要介護1～5		7,072	6,815	5,956	87%
計		7,264	6,949	6,146	88%

- ②重要な業務の複数担当制については、業務継続計画に基づき、来年度の課題である。
- ③居宅介護支援事業所に、利用者の様子の報告・連絡相談を継続している。毎月、茂呂デイ通信を作成・配布してPRに努めた。
- ④地域の回覧板にデイ通信を回覧していただいたり、ミニデイ(北千木6回)で、デイサービスでの運動や、レクリエーションを紹介できた。
- ⑤水害・防災訓練(9月)・火災訓練(3月)。
- ⑥新型コロナ感染に関しては、陽性者が出る度に、利用者家族に連絡し、体調確認のお願いをするなど、対応方法が定着した。また、6回目(5月)・7回目(11月)のコロナワクチンの巡回接種をデイフロアで行った。(延べ利用者59名、職員26名接種)

## 2 行事・その他

- ①感染対策をしながら、レクリエーションを再開し、ゲームや夏祭り・運動会が実施できた。  
また、おやつ作りでは、すいとんやおはぎ、甘酒などを作り、好評だった。
- ②特殊機械浴槽が新しくなった。
- ③老人福祉施設協議会のフォト・新聞コンテストに参加。
- ④職員研修12回:全体研修、個人目標設定、送迎、感染症予防、虐待防止、認知症、記録の電子化、緊急時の対応、通所計画・リハビリ、業務継続計画、実績評価と事業計画、リスクマネジメント
- ⑤介護体験実習生受け入れ再開。(3名)

# 美茂呂デイサービスセンター

## 1 おおぎだの重点項目に基づき報告

### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 水曜日は、リハビリ特化型で入浴を設定していなかったが、利用者のニーズに応え午後入浴を再開した。また、居宅介護支援事業所とは、日々の出来事について細やかに報告・相談しながら対応に当たった。
- ② 利用者の「やりたいこと」や「思い」を聞きとり、その人に合ったメニューの提供に努めた事で、利用者の達成感も得られたと思われる。
- ③ ナースによるリハビリメニューを作成し、個々のレベルに応じた支援が出来た。
- ④ みもろだよりを HP で公開し、地域の回覧板やミニデイ(3回)での PR に努めた。
- ⑤ 雑誌や書籍コーナーを設けたことで、利用者が自由に選んで楽しむことができた。
- ⑥ 美茂呂デイサービスから茂呂デイへと利用者をつなげることができた。(1名)(昨年度1名) ショートステイからローズヒル入所した利用者 4名(昨年度1名)。

### (2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① 利用者の個々の趣向や支援方法について、職員間で話し合い、利用者がやりたいことを選択できることができた。
- ② 業務のマニュアル整備は、次年度の課題。
- ③ 支援の方に対する個々の目標設定および実施については順調に出来てきている。
- ④ 職員一人一人が、おおぎだの重点項目に基づき個人目標を立て、評価ができた。
- ⑤ 記録の電子化は確立でき、時々不具合もあるが、概ね対応できている。

### (3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 実績配布時に、利用のない居宅介護支援事業所への訪問を行った。  
また、みもろだよりの配布により、利用者の楽しそうな表情やレクリエーションの様子等が、伝えられ、感想なども聞く機会となった。
- ② 重要な業務の複数担当制については、業務継続計画に基づき、来年度の課題。
- ③ 1日平均16名の目標に対して、14.6名。(昨年実績13名)  
新規利用者28名(茂呂居宅支援事業所9名)。お試し利用者41名。担当者会議73件。

#### 年間利用者人数

介護度	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年比
要支援 1・2		879	733	812	110%
要介護 1～5		3,575	3,259	3,702	113%
計		4,454	3,992	4,514	113%

- ④ 新型コロナ感染に関しては、陽性者が出る度に、利用者家族に連絡し、体調確認のお願いをするなど、対応方法が定着した。また、6回目(5月)・7回目(11月)のコロナワクチンの巡回接種をデイフロアで行った。(延べ利用者19名、職員15名接種)
- ⑤ 防災訓練2回実施(9月・3月)。

## 2 行事・その他

- (1) 朝顔やゴーヤの緑のカーテン、ジャガイモ植えや収穫を楽しんだ。
- (2) おやつ作り(蒸しパン・食パンロール等)や、夏祭り・運動会を再開。
- (2) 創作活動では、季節の壁面飾りや、個々に持ち替えられるリースなどの制作をした。
- (4) 職員研修 12回: 全体研修、個人目標設定、送迎、感染症予防、虐待防止、認知症、記録の電子化、緊急時の対応、通所計画・リハビリ、業務継続計画、実績評価と事業計画、リスクマネジメント
- (5) 老人福祉施設協議会のフォト・新聞コンテストに参加
- (6) 伊勢崎市立第四中学校チャレンジウィーク受け入れ(3名)

## ケアハウス菜の花

### 1 おおぎだの重点項目に基づき報告

#### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

① 5/13、14にオープンガーデンに参加、13日ISP楽団演奏で人数増加。104名の見学者(昨年92名)

② 11/5「北千木作品展」出品、「南千木作品展」見学

特別支援学校の交流会はコロナ禍で出来なかったが、庭の見学に来てもらうことが出来た。

#### (2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

①3年間コロナ禍で家族面談会が中止されていたが、今年度は実施することが出来情報交換も行えた。

② 他部署との連携 3/31 現在

部署	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
茂呂居宅介護支援事業所		9名	11名	10名
茂呂デイサービスセンター		7名	5名	6名
美茂呂デイサービスセンター		0名	3名	4名

③目標 毎月15名 年間180名→実績 年間177名 稼働率98%でした。(前年97.2%)

④新入職員研修マニュアルの業務内容の変更部分を修正し、手順書として作成。

#### (3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

コロナ感染症	入居者1(入院)12/9、職員1	入居者1、居室隔離12/23～12/31 解除
疥癬	入居者1 1/25～居室隔離	1/26～2/20 訪問看護により毎日入浴

①自主検査チェック表に基づき、居室及び共有部の緊急時連絡ボタンの動作、使用方法の確認実施。(9/25、3/21)

冷蔵庫点検1月実施。 電熱器具点検12月実施。

②9/20消防・水害訓練を入居者(5名)、3/13消防訓練を入居者(4名)と職員参加で実施。

③伊勢崎市開催の結核検診を職員同行で9名検診(昨年7名)。医療機関他で6名検診。

### 2 (1) 行事

5月 結核検診、オープンガーデン実施、家族面談会

6月 家族面談会

7月 蓮の花見学と外食、七夕実施

9月 敬老会(昼食は、お弁当)、消防(昼想定)・水害訓練参加

11月 北千木作品展(出品・見学)、南千木作品展(見学)

12月 プチクリスマス会(プレゼント、ギター演奏)

1月 初詣(千本木神社)

3月 買物ツアー(ベイシア西部モール)、誕生会(プレゼント、かるたとり)

#### (2) 委員会・研修

##### ①委員会、研修(施設内)

感染症対策委員会(5/10、9/28、12/13、2/26) 研修会(6/22、3/7)

事故発生防止委員会(6/13、9/20、12/13、3/13) 研修会(8/24、3/13)

身体拘束適正化委員会(6/7、9/28、11/22、2/14) 研修会(7/12、1/25)

##### ②研修(施設外)

職員研修会(2/2)

# 茂呂ヘルプサービスセンター

## 1 おおぎだの重点項目に基づき報告

### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ①独居で生活する利用者が全体の78%を占める中、日々の様子を報告、モニタリング、連携記録を活用しケアマネージャーとの連携を深めることで、本人や離れて暮らす家族が安心、安全に生活を送る手助けができ、信頼関係を築くことができた。
- ②利用者のニーズを踏まえ、通院等乗降介助サービスを再開するための準備として、利用方法や請求方法を確認する、乗降介助等についての会議を事務部門と一緒に行い令和6年度運用の準備を行った。

### (2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ①ヘルパー会議を通しサービスの統一化を図る為、手順や注意点の報告や担当ヘルパーからの意見を収集し問題点への解決に努めることができた。
- ②最期まで看取るのビジョンのもと自宅での生活を希望される方に対しケアマネージャーや他のサービスとの連携を密にし、家族の希望するサービスの提供ができた。

### (3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

感染対策研修などの開催を通し、感染に関する知識や技術を学んだ。疥癬の感染者発生時には対策を検討し、対応することができた。BCP(業務継続計画)作成により、介護報酬改定への対応と感染、災害発生に備えることができた。

#### ① 利用時間

サービス提供時間 月平均 実績 = 567 時間 (目標 = 650 時間以上)

年 度	月平均利用時間
令和 3 年度(2021)	685 時間
令和 4 年度(2022)	567 時間

目標月平均 650 時間に対し、567 時間と目標には届かなかった。毎日利用の方の入院、入所、サービス終了などが多く、新規派遣追加や時間追加希望の方も去年と、ほぼ横ばいという結果となった。

#### ② 利用者数と介護度

合計 52 人(前年度 57 人)

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
6 人	11 人	10 人	16 人	5 人	3 人	1 人

③ 新規利用 11 人<要支援 3 人、要介護 8 人> (前年度 12 人)

④ 時間追加希望 7 人 (前年度 6 人)

## 2 職員研修

### (1)施設内会議・委員会・研修

ヘルパー会議 毎月開催

感染対策委員会 2 回 (5/25)(10/26) 感染対策研修会 1 回 (6/29)

### (2)施設外研修

国土交通省認定 移送サービス運転協力者講習会(オンライン、実技の2日間)

# 茂呂居宅介護支援事業所

## 1 おおぎだ重点項目に基づき報告

### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 民生委員の方との交流会や包括ネットワーク会議に参加が行え、民生委員の活動や連携、独り暮らしの方の情報などを得る事ができ、事業所の広報など行えた。
- ② 5月よりミニデイの講師派遣にて介護保険の利用に関して説明も行え、DVDの貸し出しなど協力も行えた。

(今泉ミニデイ 5、8、11月 北千木ミニデイ 6、7、9、11、12月 令和6年2、3月)

### (2) プロ意識を持って主体的に働く職員を育てる

- ① 居宅会議は業務の都合等により毎月の開催は行えなかったが、各委員会の伝達、情報の共有は行えている。
- ② 主任ケアマネの更新研修受講要件の法定外研修(6回)など積極的に参加できた。
- ③ ケアプランデータ連携システムに関しては、他の事業所など情報を集収しているが、導入されている事業所は数ヶ所であり、導入に関して今後検討していく。

### (3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 安全衛生委員会に毎月出席しており、感染状況や対策など確認している。
- ② コロナ感染等により管理者不在になる可能性もあり、請求業務に関しては、要支援の請求では複数担当制を始めており、要介護の請求は随時行う予定である。

## 2 サービス提供目標

### (1) 目標利用者数

ケアマネジャー 1人あたりの件数 39件(要支援14件(0.5換算) 要介護32件)

全体目標		要支援 42件	要介護96件
年度	介護度	要支援	要介護
令和3年(2021年)		39	94
令和4年(2022年)		44	94
令和5年(2023年)		43	99

※ 利用者件数(月単位 小数点以下四捨五入)

要支援、要介護とも前年度を上回り目標を達成できた。

逓減制(1人あたりの担当件数40件以上になり、40件以上の基本報酬が1/2に減額となる介護報酬の制度)R5年11月、R6年1月、2月以外は全て対象となった。

### (2) 加算取得

- ① 初回加算31件、入院時加算は33件取得。
- ② 特定事業所集中減算に対しては対象外を維持できた。
- ③ 職員から1件、家族・本人からの依頼15件、包括支援センター・病院からの紹介7件紹介があり新規利用に繋がった。

## 厨房部門

### 1 おおぎだの重点項目に基づき報告

#### (1) 地域の多様なニーズに応じた特色のある施設にする

- ①行事食(月1回 全12回実施)
- ②各部署にリクエストしたセレクト食(月1回 全12回実施)
- ③「観て！食べて！楽しんで♪スマイルホリデー  
～バスで巡る絶景グルメ旅～」(月1回 全12回実施)
- ④健幸御膳(月1回 全12回実施)
- ⑤その他

各部署の行事計画に沿ったサービスの提供  
(お誕生日会、夏祭りなど)

毎月1日の昼食はお赤飯提供

月に1回日曜日の昼食は特養にパン提供

毎週日曜日の昼食はケアハウスに様々な種類のパン提供

各部署のおやつ作りの材料を提供

#### (2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

##### 【定例事業】

- ① 給食サービス委員会(月1回、全12回)
- ② 嗜好調査(11月)
- ③ 残食調査(毎食後)、評価・報告(6月、9月、12月、3月)
- ④ 群馬県食品衛生協会に保存検食の検査依頼。(7月・9月)
- ⑤ 備蓄食品点検(9月)
- ⑥ 給食施設実施状況報告(12月)

##### 【日常事業】

- ①栄養ケアマネジメントによる個々の栄養管理  
(入所者の身体状況管理、喫食量の把握、嗜好調査、栄養ケア計画・評価など)
- ②栄養帳票・衛生帳票の管理
- ③厨房職員への衛生指導(衛生勉強会 全12回等)

#### (3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ①定期的にディスポ食器や非常食の見直しを行い、感染時・災害時に食事提供が滞りなくできるよう努めた。
- ②安全衛生委員会にて研修会の実施  
「食中毒と感染予防」(6月)
- ③グリーンハウスグループの研修に参加  
刺身衛生講習会(9月 4名参加)  
食品衛生責任者(2月 2名参加)  
コンプライアンス研修(2月 1名参加)  
疾病ガイドライン改訂の研修(3月 4名参加)

## 令和5年度 事業報告の附属明細書

令和5年度事業報告で、社会福祉法第45条の2第2項の規定により作成する事業報告の附属明細書は、社会福祉法施行規則第2条の第25第3項で規定する事業報告の内容を補足する重要な事項がないため作成していません。

社会福祉法人 おおぎだ